

平成 29 年度 ほっとネット地区推進会議、総合推進会議のまとめ
 (「ほっとネットの評価、今後について」)

1 地区推進会議

| | |
|-----|---|
| 北東部 | <ol style="list-style-type: none"> 1 コーディネーターの不足：4人で相談、課題に対応するのは大変。 2 推進員のケア：何をして良いか分からないという方に、身近なことから始められると伝えるなど。 3 相談窓口として：何でも相談できるという安心感が大事。より市民に周知できるとよい。 4 分かりやすい広報：困ったことを相談にのってくれる場所だと分かりやすくPRしては？ 5 若い世代、子育て世代への推進員登録促進： 乳幼児健診などの場に推進員募集チラシを置くなど、ターゲットを定めたPRをしてはどうか。 |
| 中部 | <ol style="list-style-type: none"> 1 相談窓口としての充実：相談に対応する支援機能の充実 2 地域課題解決の仕組作りの強化：買物弱者への支援や積雪時の雪かきなど、多者協働での仕組づくり 3 他事業、関係機関や市民団体との連携の強化：地域で助け合いを目的とする活動（ふれまち）との連携 4 地域のリーダー育成：地域活動者、リーダーとして推進員の育成 5 守秘義務の課題：市民が関わる相談事業として守秘義務についての課題 6 広報力の強化：事業についての市民周知。より理解者を増やす取組 |
| 西部 | <ol style="list-style-type: none"> 1 ほっとネットの機能について： <ul style="list-style-type: none"> ・制度の狭間などに対応 ・(ほっとネット推進員など) 市民が解決の一員になっている。 ・個別課題を地域課題として捉える視点 ・コーディネーターが地域に出向き、地域の現状を感じながら活動 2 地域福祉コーディネーター不足： <ul style="list-style-type: none"> ・相談件数増、様々な相談内容により、対応等に時間がかかる。 |

| | |
|----|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別課題支援と地域支援は両輪で必要。 <p>3 推進員について：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事例に関わりながら、推進員ができることを考えてもらう。 ・ 推進員研修会が体系的に実施 ・ 障害や認知症など学習の場、活動のフォローや支援が必要 <p>4 広報について：</p> <p>ほっとネットの機能や役割を明確にして周知</p> <p>5 他の制度や仕組との違いが分からない。：</p> <p>たくさんの網の目が合ってよい。多問題のつなぎ役はほっとネット。</p> <p>6 個人情報について：</p> <p>推進員や関係機関との連携において、個人情報や情報提供が課題</p> |
| 南部 | <p>1 コーディネーターの不足： 個別の相談は時間がかかり、丁寧な関わりが必要</p> <p>2 広報・周知の徹底： 他の制度や仕組との違いが分かりにくい。分かりやすい説明が必要。</p> <p>3 地域のボランティアへのサポート、フォロー： 地域活動で困難を感じたときなどのコーディネーターのサポート</p> <p>4 ほっとネット推進員を増やす取組： 「誰でも登録できる」というハードルの低さをアピールする</p> |

2 総合推進会議

1 **ほっとネットの機能**：個別支援での課題解決に加え、課題解決のための仕組みづくりにつながることを期待

2 **社会資源の把握**：

ほっとネット推進員は、地域の中の社会資源の情報をよく把握している。個別支援の際には、その方を地域の中で支える資源があることが重要。ほっとネットが、社会資源の情報を集約する形で大きくなってもらえると、関係機関としては頼りになる。

3 **コーディネーターの活動**：

コーディネーターが地域での活動に入り込んで活動することで、地域の課題を住民同士で共有したり、関係機関とつないだりといった役割を果たしている。こういう方がいることで地域づくりが出来ている。

4 **情報の伝達のツールとして**：

地域の住民のニーズを把握するのが難しい。的確にニーズのある人に情報を伝達するために、推進員をはじめとしたほっとネットが情報伝達のためのツールとして活用していければよい。

5 **独自性・強みをアピール**：

地域づくりや住民連携を目的とした事業が様々あるが、独自性や強みをアピールしないと「同じようなものは一つに」という意見になる。ほっとネットは、個別支援と総合相談的な機能が独自性・強みであり、積極的に発信していくべき。

6 **コーディネーターの質・量的な増加**：

ほっとネットでは、コーディネーターの力量が重要。単に人数を増やすだけでなく、力量を備えた人員を配置することが重要。一方で、推進員にコーディネーターを支えてもらうという仕組みについては、ほっとネットの成功点として評価している。

7 **増加する相談についての対応**：

ワンストップ相談窓口としての機能を発揮してもらい、受けた相談については、交通整理をし、他の機関につなぐことで、増加する相談件数に対応してもらいたい。

8 **地域の課題解決力の向上に向けて**：

市民と行政をつなぐのがほっとネットの役割。市民からの相談をうける以外にも、課題解決も市民の協力を得ながら進めていく。この体制を更に進めることが地域の課題解決力を高めていくことになる。

